

「新潟港・直江津港の国際物流について」



新潟東港コンテナターミナル



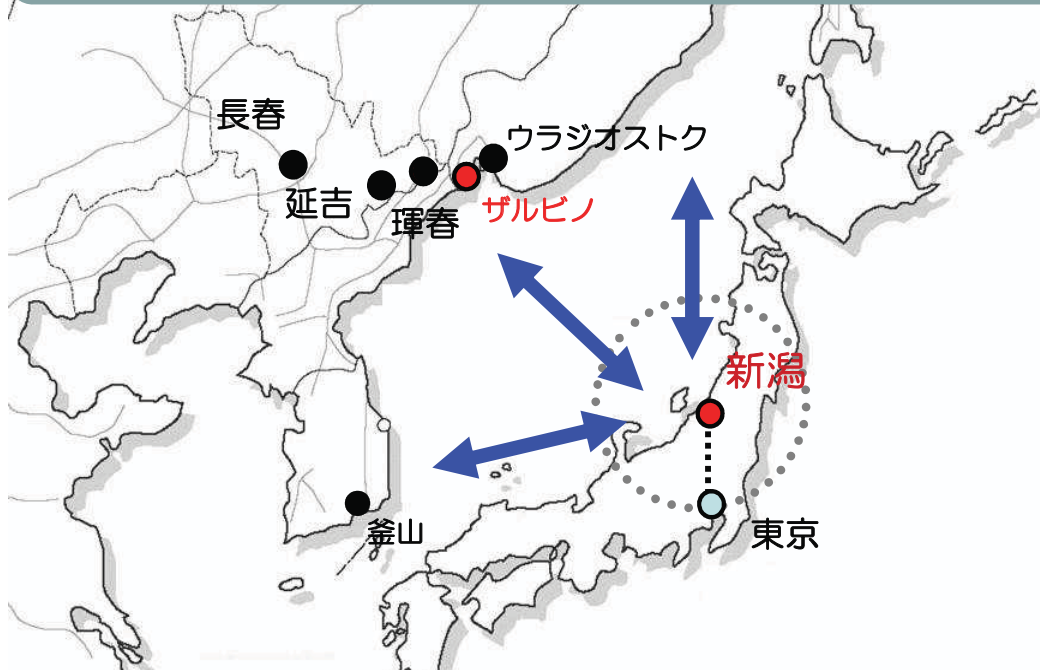
NIIGATA
PREFECTURE

平成26年3月12日

新潟県交通政策局

北東アジアにおける新潟の位置と新潟港の外貿定期コンテナ航路

○開港5港の1つとして、以来、中国、韓国、ロシア等への窓口の役割



・中国、韓国、ロシア、モンゴルの4総領事館の設置

・北東アジア経済発展国際会議など対岸交流関係の会議開催

・中国・黒龍江省、吉林省やロシア・沿海地方、ハバロフスク地方との交流の実績

・中国、韓国、ロシア等との航空路線(5路線)
※ロシア定期路線は現在休止中

・ロシア等諸外国からのLNGの受入拠点

○対岸諸国の港湾との間に週11.5便の定期コンテナ航路が就航



■釜山航路 週3便運航

釜山に寄港

■中国・釜山航路 週5便運航

釜山、中国〈大連、青島〉・
〈天津新港、大連〉・〈上海、寧波〉に寄港

■中国航路 週2便運航

上海、大連、青島に寄港

■釜山・ロシア極東航路 週1便運航

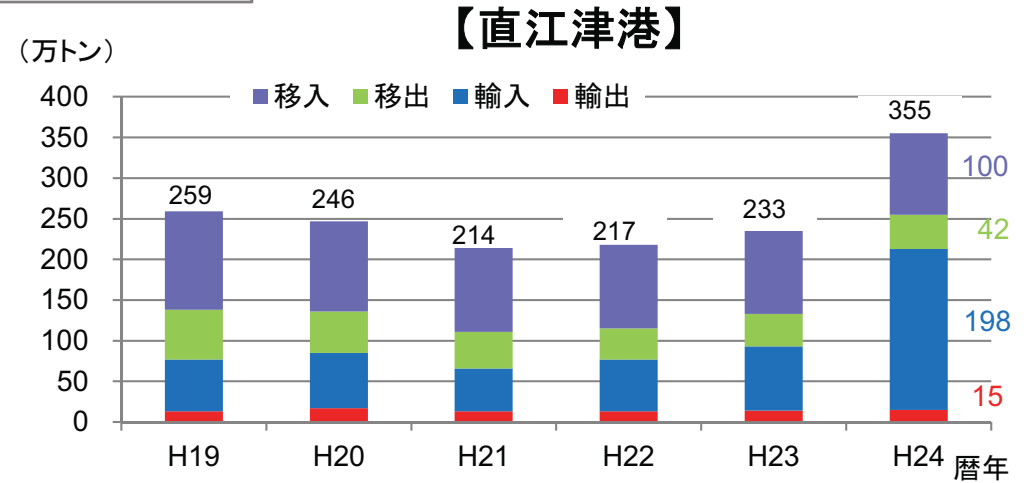
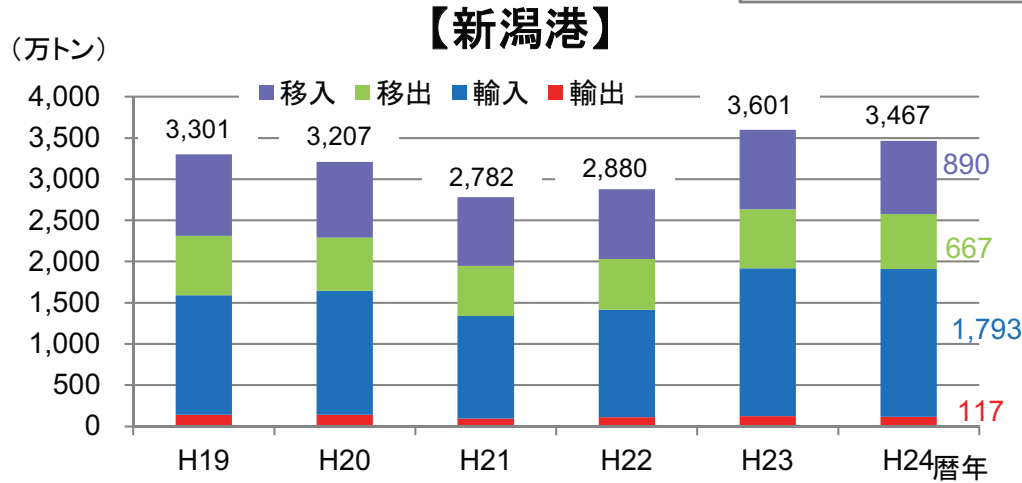
釜山、ウラジオストクに寄港

■ザルビノ・琿春(日本海横断)航路 月2便運航

ザルビノに寄港

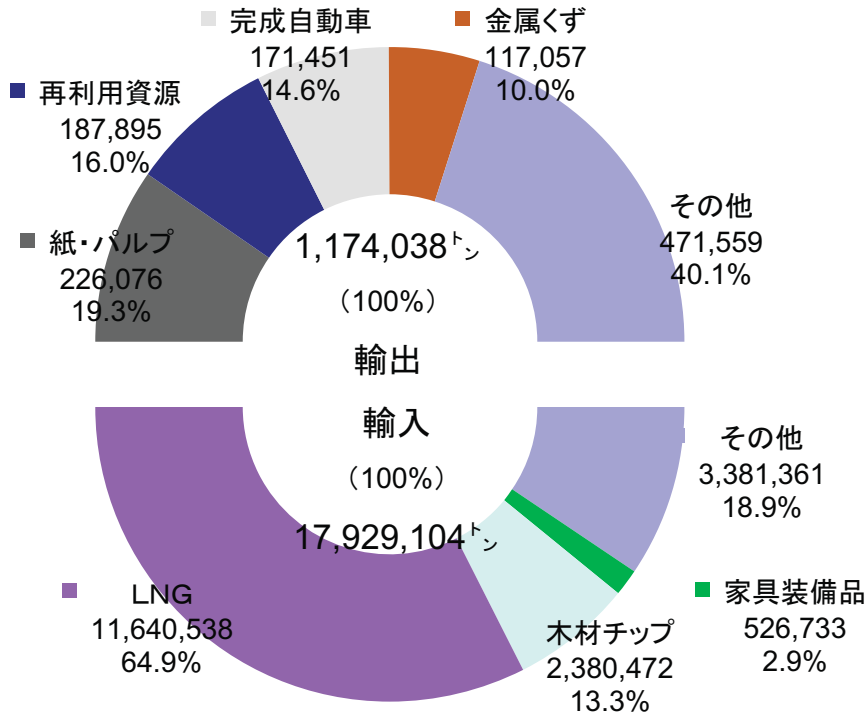
新潟港・直江津港の取扱貨物量の推移と品目別構成

取扱貨物量の推移

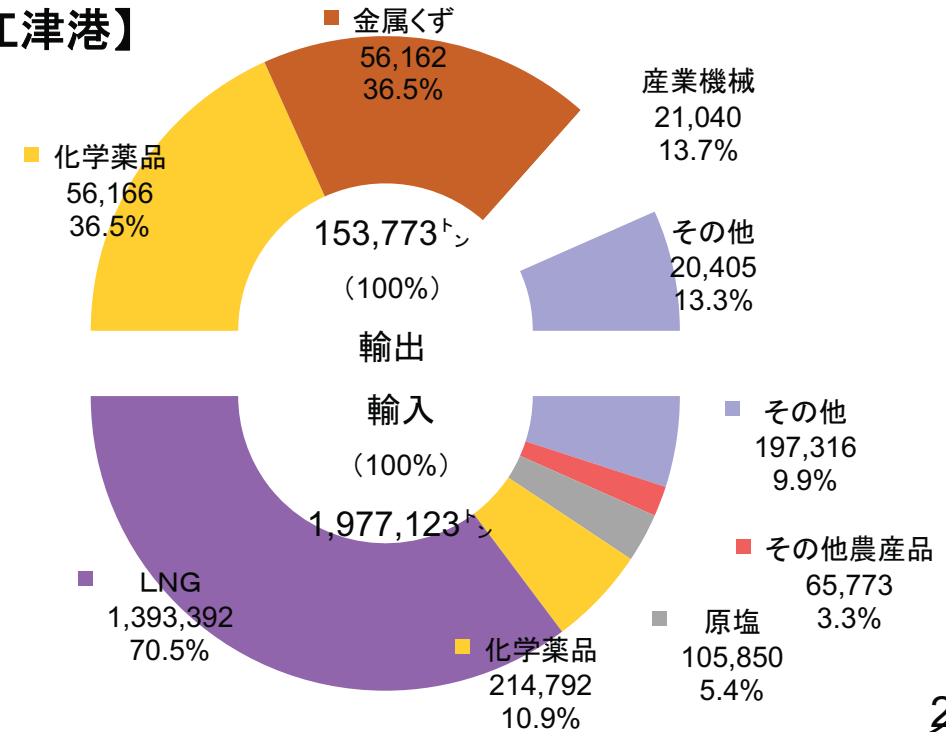


輸出入貨物の品目別構成(平成24年)

【新潟港】



【直江津港】



新潟港・直江津港のコンテナ貨物取扱量

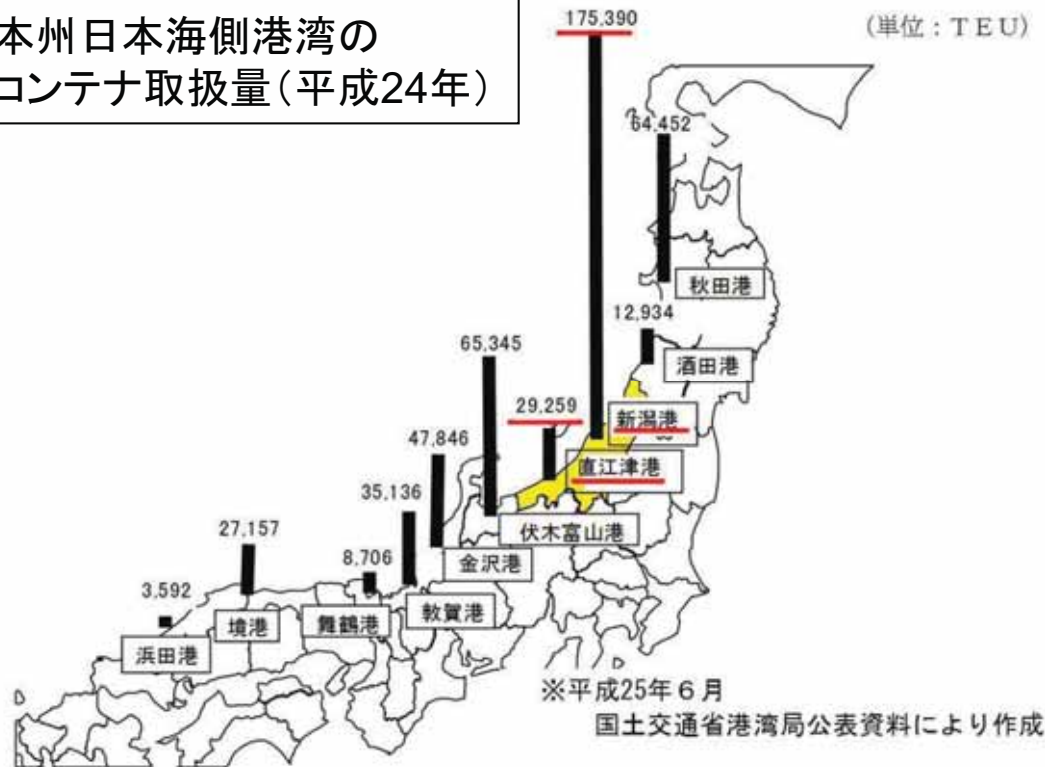
■ 新潟港のコンテナ取扱量の推移

- 平成25年の取扱量は18万TEUを超え、平成23年に次ぐ過去2番目の記録
- 全国の港湾別のコンテナ取扱量 第11位(平成24年)

■ 直江津港のコンテナ取扱量の推移

- 総数で3万TEUを超え、実入りとともに4年連続で過去最高を記録

本州日本海側港湾の
コンテナ取扱量(平成24年)



(注)速報値であり、国内移送分を含む

新潟港コンテナターミナルの機能拡充

- 取扱能力の向上・船舶の沖待ち解消
 - トレーラの渋滞対策
 - 冬期間の除雪対策の強化
- 西ふ頭4号岸壁 (-12m) 整備
 - トレーラゲート増設、トレーラー待避レーン延伸
 - 融雪施設整備

船舶の沖待ち対策



西ふ頭 4号岸壁(-12m)整備(H24.6)により沖待ちは大幅に減少

西ふ頭 4号耐震岸壁(-12m)の整備により港湾取扱能力が大幅に向上した
東港区 国際海上コンテナターミナル



利便性向上

コンテナの洗浄・補修を行うためのメンテナンスショップを県で整備中 (H26年度供用予定)

トレーラ渋滞対策①



H25年度 トレーラゲート 2レーン増設完了

沖待ち発生状況

	H22年	H25年
発生隻数	100 隻	38 隻
		62%減
沖待ち時間 (トータル)	1171 時間	424 時間
		64%減

除雪対策の強化



H22年度から順次、消雪パイプ設置

トレーラ渋滞対策②



H25年度 トレーラ待避レーン延伸工事に着手

新潟港コンテナターミナルの民営化

- 競争力の高いコンテナターミナルを実現し、コンテナ取扱量の拡大を図るため、港湾運営会社制度の導入により民営化へ移行
- 国の同意を得て、3月7日にN-WTT^(注)を港湾運営会社に指定
(注)N-WTT:株式会社新潟国際貿易ターミナル(現コンテナターミナル指定管理者)
- 平成26年4月に港湾運営会社による運営を開始

【民営化の概要】

港湾運営会社制度による「民の視点」を港湾運営に導入

- ・対船社交渉力の強化
- ・荷主サービスの向上
- ・運営の合理化・効率化



- 利用者にとって使いやすい、荷主・船社に選ばれる競争力の高いコンテナターミナルを実現
- コンテナ取扱量の一層の増加を目指す

【港湾運営会社(N-WTT)からの提案】

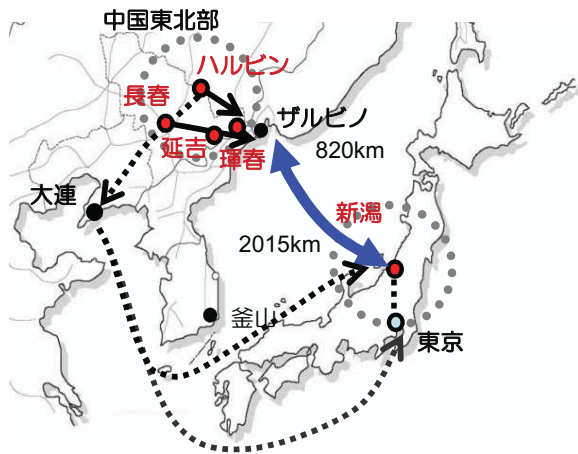
- 事業期間：30年間（平成26年度～平成55年度）
- 施設使用料金
ボリュームインセンティブや料金減免を実施
- 営業活動の実施
経営・営業戦略を策定する企画部門及び集荷活動を行う営業部門を設置
- 効率的なターミナル運営
ヤードの有効利用や共同荷役の継続実施による合理化、効率化を実施

新潟港の機能強化に向けた取組

■ 日本海横断航路による対岸交流の推進

○ 中国東北部・ロシア極東と日本を結ぶショートカットルートの形成により、これらの地域との交流を推進

- ・中国吉林省・新潟県・市の共同支援のもと、新潟ーザルビノー琿春航路を開設
- ・中国東北部・ロシア極東と日本とのリードタイムを大幅に短縮
- ・安定的な運航体制の構築と航路の活性化を図る



物流の効率化	
既存のコンテナ航路	
長春ー大連ー新潟 (長春ー大連ー東京 9日)	9日
日本海横断航路	
長春ーザルビノー新潟 (長春ーザルビノー新潟ー東京 5日)	4日

■ 新三国トンネル建設に向けた動き

- 関越道を補完する「太平洋側の代替機能」の強化
- 関東方面から日本海側への物流・観光ルート強化による新潟の拠点性の向上

センターラインを大きくはみ出して走行する大型車



三国トンネル



大型車による覆工の擦り状況



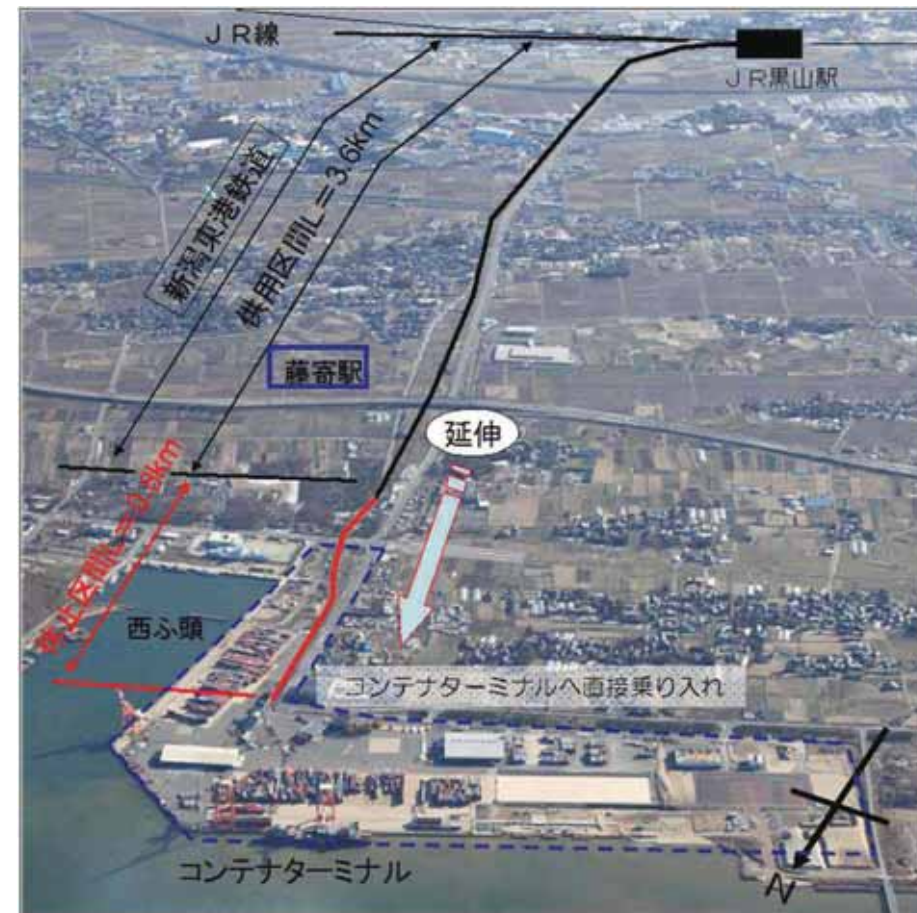
■ オン・ドック・レールの整備に向けて

○ コンテナヤードへ鉄道が直接乗り入れる「オン・ドック・レール」を推進し新潟港の機能を強化

- ・ オン・ドック・レールの整備効果

- 1) CO2削減に対応したモーダルシフトの推進・企業支援
- 2) 新潟東港の機能強化(物流コストの削減)

- ・ 現在、事業実施に向け、荷主や関係機関との調整に取組



LNG受入拠点としての新潟港・直江津港

■ 新潟港(東港区)エネルギー基地

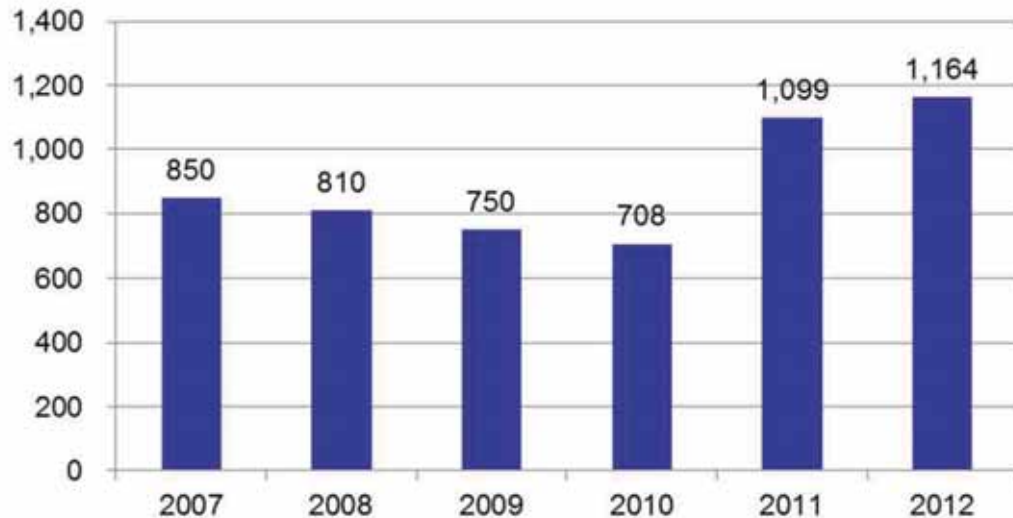


■ 直江津港エネルギー基地



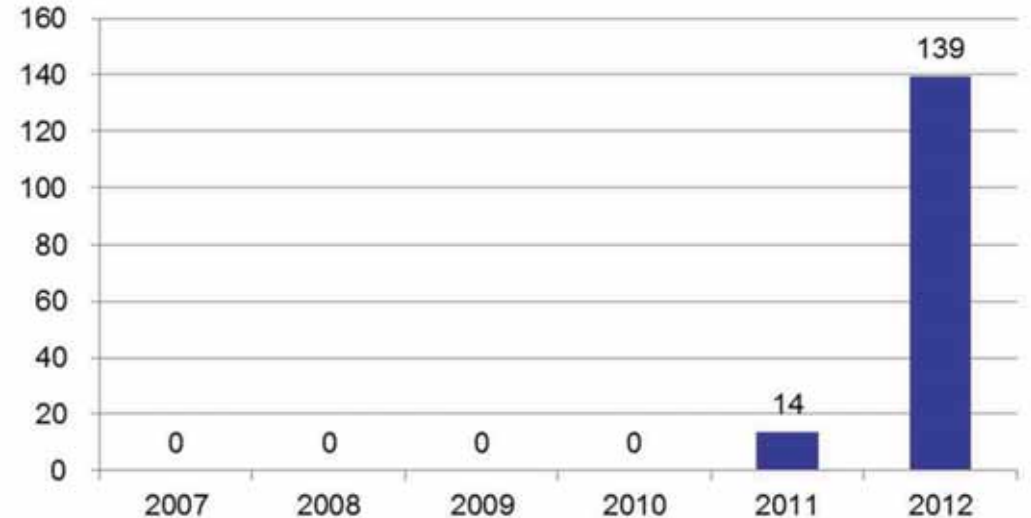
新潟港のLNG輸入量

(万フレーターン)



直江津港のLNG輸入量

(万フレーターン)



新潟港でのクルーズ船の受け入れ

◆入港実績

入港年度	入港回数	船舶名
H23年度	2	飛鳥Ⅱ
H24年度	4	飛鳥Ⅱ、ぱしふいっくびいなす
H25年度	5	飛鳥Ⅱ、カレドニアン・スカイ



飛鳥Ⅱ



ぱしふいっくびいなす



カレドニアン・スカイ



◆誘致推進に向けた予算措置

- 平成26年度は、旅客船誘致推進事業予算を計上し、地域振興や経済活性化に資するクルーズ船の県内港への誘致に向け、受入れ体制の整備や観光ルートの発掘・検討、船社へのPR活動等の取組を強化する。

今後の新潟港の目指すべき方向

- ・新潟港の港湾計画（平成12年策定）は、平成20年代前半を目標年次とするもの。
- ・社会経済情勢の変化に対応するため、現在、以下の3点を目指すべき方向とした、新潟港の将来構想を検討中。

1) 北東アジアゲートウェイ機能の進化（物流）

○北東アジア、東アジア、東南アジアの玄関口にふさわしい日本海側拠点港の形成

日本海側における総合的拠点港として新潟港の港湾機能や国際競争力の強化を図り、対岸諸国（中国、ロシア、韓国など）や今後、世界経済の牽引役として期待されている東南アジアの経済発展を我が国の成長に取り込むための中心的役割を担う。

2) 地域経済の発展への貢献（産業・交流）

○地域経済の活力を増進する港づくり

地域経済を支える拠点港湾として物流・交流機能の強化を図り、新潟における地域経済の一層の発展に貢献する。

○交流拠点機能のさらなる強化

ウォーターフロントの特性を活かして、地域の人々の賑わい・憩いの空間を提供するとともに、2019年に開港150周年を迎える歴史ある湊町の風情を活かしつつ国際的な文化・交流拠点としての機能向上を図る。

3) 太平洋側港湾のバックアップ機能の強化（防災）

○防災拠点機能の強化

東日本大震災の教訓を踏まえ、首都直下型地震等の太平洋側の大規模災害時におけるリダンダンシー確保のために、新潟港の防災拠点としての機能強化を促進する。

○エネルギー供給基地としてのさらなる拠点化

LNG基地、ガスパイプラインなどのインフラを活かし、ロシア等諸外国からのエネルギーを受け入れるなど、我が国のエネルギー供給拠点としての役割を担う。

ご清聴ありがとうございました。

【新潟県交通政策局】

電話:025-280-5456 FAX:025-280-5089

E-mail:ngt170010@pref.niigata.lg.jp



NIIGATA
PREFECTURE